

# 板橋区青少年問題協議会(第 30 期) 第一回全体会

開催日時 令和 8 年 3 月 23 日(月) 午後 6 時 30 分～

開催場所 区立グリーンホール 2 階ホール

## 出席者

板 橋 区 長	坂 本 健
板 橋 区 議 会 議 長	田 中 しゅんすけ
板橋区議会文教児童委員会委員長	間 中 りんぺい
東京家政大学児童学部教授	武 田 洋 子
板橋区教育委員会 教育委員	野 田 義 博
区立中学校校長会代表	太 田 繁 伸
区立小学校 P T A 連 合 会 会 長	大 塚 か ん な
区立中学校 P T A 連 合 会 会 長	堂 本 航 一
板橋区青少年委員会副会長	田 口 直 規
板橋区町会連合会副会長	露 木 保 文
板橋区青少年健全育成地区委員会連合会代表	三 枝 節 夫
板橋区民生・児童委員協議会代表	島 村 恵 子
板 橋 区 保 護 司 会 代 表	渡 邊 一 史
東京都警視庁板橋警察署生活安全課長	加 藤 卓
公 募 委 員	酒 井 麻 那
板 橋 区 教 育 委 員 会 教 育 長	長 沼 豊
区 民 文 化 部 長	平 岩 俊 二
子 ど も 家 庭 部 長	関 俊 介
教 育 委 員 会 事 務 局 次 長	林 栄 喜
地 域 教 育 力 担 当 部 長	金 子 和 也

## 出席職員（幹事）

ス ポ ー ツ 振 興 課 長	田 中 一 誉
子 育 て 支 援 課 長	村 山 隆 志
子 ど も 政 策 課 長	吉 田 有
生 涯 学 習 課 長	池 田 雄 史
地 域 教 育 力 推 進 課 長	高 木 翔 平

## 【開会】

- ・会長あいさつ
- ・資料確認
- ・委員及び幹事紹介

## 【副会長選出】

### ▽会長（板橋区長）

それでは次第に沿って進行させていただきます。まず、議事に先立ちまして、「副会長選出」を行います。板橋区青少年問題協議会条例におきまして協議会に副会長を置く規定がございますので、副会長の選出をお願いしたいと存じます。選出につきましては、委員の皆様との互選によることとなっておりますが、いかがいたしましょうか。

### ▽野田委員（板橋区教育委員会教育委員）

教育委員の野田です。副会長には学識経験者であります、東京家政大学教授の武田委員を推薦したいと思いますが、いかがでしょうか。

### ▽会長（板橋区長）

ただいま野田委員から武田委員を副会長にとのご推薦がありましたが、皆様いかがでしょうか。

（異議なし）

異議がないようでございますので、武田委員に副会長をお引き受けいただきたいと存じます。武田委員、どうぞよろしくお願いいたします。

副会長就任にあたりまして、武田委員にご挨拶をいただきたいと存じますのでどうぞよろしくお願いいたします。

### ▽副会長（東京家政大学児童学部教授）

ただいまご紹介に預かりました、東京家政大学の武田でございます。この度はご推薦並びにご賛同くださりましてありがとうございます。微力ながら皆様方のご協力をいただきまして、しっかりと務めて、協議会の活動を充実させて参りたいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

### ▽会長（板橋区長）

それでは早速議事に移りたいと思います。

まず議事（１）、第３０期審議テーマと検討方針につきまして、事務局から説明をお願いいたします。なお質疑・ご意見につきましては、議事の最後にお伺いしたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

## ▽事務局（地域教育力推進課長）

それでは審議テーマについて、ご説明をさせていただきたいと思います。今期の青少年問題協議会の審議テーマについて、資料2をご覧ください。

これまで、青少年問題協議会では、子どもたちが直面する様々な問題につきまして、委員の皆様と協議をまいりました。今回の審議テーマを設定するにあたりましては、令和5年4月のこども基本法の施行を受けまして、事務局におきまして、子どもたちにとって身近な施策や事業をテーマにするというところから検討をはじめまして、夕焼けチャイムの検証及び検討を行うのはいかがかということになりました。

夕焼けチャイムの検証・検討をするにあたりまして、まず、板橋区の夕焼けチャイムの経緯を簡単にご説明させていただきます。

板橋区の夕焼けチャイムは、昭和56年度の板橋区青少年問題協議会の中間答申におきまして、社会環境浄化を地域ぐるみで展開する運動の一環として、「児童・生徒の帰宅意識の啓発を図る」という趣旨で実施の提案を受けたことが導入のきっかけとなりました。翌年、昭和57年度に夏休み等の学校休業期間に試行として実施しまして、昭和58年4月から「児童・生徒の非行化防止、帰宅意識の啓発を図るとともに、家庭・地域社会に児童・生徒の帰宅時間に関心を深めてもらうこと」を目的として、学校休業期間によらず毎日放送する本格実施を開始いたしました。

その後、平成19年8月に小学校PTA連合会から放送時刻変更に関する要望を受けまして、「夕焼けチャイム検討委員会」による検討を行い、平成19年11月に放送時刻の変更とナレーションを追加いたしました。こうして、10月から2月までは午後4時30分、3月から9月までは午後5時30分に、夕焼けこやけのメロディーと『4時30分になりました。外で遊んでいる子どもたちは、気を付けておうちへ帰りましょう』といったナレーション、という現行の形となりました。この平成19年の運用変更以来、約17年間、変わらぬ仕様で放送しております。

テーマ設定の背景に移ります。毎日放送が流れ、子どもや区民の生活にも馴染んでいる夕焼けチャイムですけれども、今回の検討の対象とした背景には、令和5年4月に施行された「こども基本法」が大きくかかわっております。こども基本法では、地方公共団体に対して、子ども施策の策定にあたって子どもの意見を反映させるために必要な措置を講ずることが義務付けられました。この、こども基本法の施行を受けまして、夕焼けチャイムについて今一度、子どもの目線から検証し、子どもの意見を反映した運用を検討する必要があると考えております。

また、板橋区におきましても、令和7年度に策定されました教育大綱に基づきまして、令和8年度から新たな教育行政における基本計画であります「MIRAI SCHOOL いたばしー板橋区教育ビジョン2035ー」が始まります。教育ビジョン2035では、いたばし全体を学びのキャンパスと位置づけまして、教育を通して学び、成長、人とつながる喜びを感じられるまちの実現をめざしております。この教育ビジョン2035を踏まえまして皆様に議論していただくために、第1回全体会をこのタイミングでの開催とさせていただいております。

以上、子ども基本法の施行と「MIRAI SCHOOL いたばしー板橋区教育ビジョン2035ー」の

策定、この二つの背景から、今期の審議テーマを「子どもまんなか」の夕焼けチャイムのあり方」として、皆様にご議論いただければと存じます。

今回の審議テーマをご議論していただくにあたりまして、こども基本法の考え方に基づいて、子どもの意見を幅広く聴取し、可能な限り反映させることと、「MIRAI SCHOOL いたばしー板橋区教育ビジョン 2035ー」の考え方に基づきまして、夕焼けチャイムをこれまでの親から子への帰宅時間の意識づけという家庭教育の観点も含めまして、地域全体において、地域教育力として子どもの安心・安全に対する学びを深めて、意識の向上を図る観点から、ご議論いただければと考えております。

続きまして、作業部会の設置と全体のスケジュールということで、資料3をご覧ください。今後の審議につきまして、板橋区青少年問題協議会要綱の「青少年問題を専門的かつ具体的に協議するために、部会を設置することができる」という規定に基づきまして、また、2年間の任期の中で、先ほど申し上げた検討方針を踏まえた上で、審議テーマである「子どもまんなか」の夕焼けチャイム」を具現化するため、作業部会の設置を提案させていただきたいと思っております。

作業部会につきましては、夕焼けチャイムの検証のための調査方法や調査内容の協議、事務局が実施した調査の結果分析や精査、全体会への報告、また区への提言作成といった部分で、専門的かつ具体的な協議を行っていただく想定をしております。作業部会にご参加いただく委員につきましては、資料に記載させていただいたとおりです。様々な委員の視点から忌憚ないご意見を頂戴できればと考えております。

第30期の全体スケジュールにつきまして、開催時期につきましてはいずれも予定となっておりますけれども、令和8年5月に第1回作業部会で調査に関する検討、その後事務局による調査を経て11月、第2回作業部会におきまして調査結果の分析及び論点整理、続いて令和9年1月の第3回作業部会におきまして第2回全体会に向けた報告内容の調整を行ったあとに、令和9年3月に第2回全体会で作業部会から協議結果の報告と、審議テーマにおける論点に関する意見交換をまいります。そして、令和9年6月に第4回作業部会におきまして提言案を作成し、令和9年9月の第3回全体会におきまして提言を決定、区に提出するというスケジュールで進めさせていただき予定でございます。

委員の皆様におかれましては、お忙しい中ではありますが、お力添えをいただきたく存じ上げます。私からの説明は以上でございます。

## ▽会長（板橋区長）

ただいま事務局の方から審議テーマと検討方針に関しまして、説明がありました。続きまして、議事（2）「放課後の子どもたちの現状について」に進みたいと思っております。事務局から審議テーマについて説明がありましたけれども、夕焼けチャイムの検証及び検討を行うにあたりまして、委員の皆様のイメージを深めるために、関係機関の皆様に「放課後の子どもたちを取り巻く現状」についてお話をいただきたいと思います。と存じます。

はじめに、子どもたちの安心・安全を考えるにあたりまして、板橋警察署生活安全課から子どもたちが巻き込まれる犯罪・事件についてお話をいただきます。

## ▽板橋警察署生活安全課

本日は夕焼けチャイムのあり方について警察官という立場からお話しさせていただきます。内容としては、子どもが巻き込まれる犯罪・事件についてです。

まず、全国の13歳未満の子どもが被害者となる犯罪について、令和元年から令和6年までの子どもの被害件数と凶悪な事件や暴力行為を用いた犯罪の被害状況についてです。

令和3年までは、被害件数は減少傾向にありましたが、令和4年から増加傾向となっており、令和3年の被害件数8,688件に対し、令和6年では13,253件と、約4,500件増加しています。また罪種については、大人を含めた事件の認知件数に占める子どもの被害件数の割合が最も高い罪種は略取・誘拐であり、全体の認知件数588件のうち子どもの被害件数は217件でした。

次に、東京都内における凶悪・粗暴事案の年齢別被害認知状況についてです。令和6年の凶悪粗暴犯等における少年の被害認知件数は1,212件でした。年齢別で見ると13歳から19歳が880件で最も多く、次いで6歳から12歳が256件という状況でした。

次に、前兆事案についてお話しさせていただきます。前兆事案について、簡単にご説明させていただきますと、子どもと女性を対象とする性犯罪などの前兆とみられる声かけ、つきまとい、身体をつかむ等の行為や、不同意性交等の重大な性犯罪等に発展する恐れのある事案を総称して、前兆事案と呼んでおります。詳しい内容については、警視庁ホームページにも記載されておりますので、ご参考にしてください。

それでは前兆事案の認知件数について、東京都内と板橋区内に分けてご説明させていただきます。まず、東京都内における前兆事案の認知状況についてです。令和6年、令和7年ともに認知件数が最も多いのは声かけ事案であり、令和6年度で710件、令和7年度で853件でした。

学職別で見ると、令和6年度は小学生・未就学児で最も多いのが声かけ事案で492件、中学生も声かけ事案で117件、高校生では盗撮事案で214件を認知している状況になります。令和7年度においても、小学生・未就学児童で最も多いのは声かけ事案で570件、中学生も声かけ事案で140件、高校生については盗撮事案で209件を認知している状況となります。

次に時間別の東京都内の前兆事案認知状況について、令和6年度は15時から17時の時間帯に前兆事案の発生が多く、最も多いのは16時台です。また、15時から17時の時間帯において認知件数の多い事案は声かけ事案となります。

令和7年度について、令和6年度と同様に15時から17時台の時間帯で前兆事案の発生が多く、その中でも16時台、声かけ事案が最も多いという結果になりました。

続いて板橋区内における前兆事案の認知状況についてお話しさせていただきます。板橋区では、令和6年度で最も多く認知したのがつきまとい事案で28件、令和7年度では声かけ事案で36件でした。

学職別に見ると、令和6年度は小学生・未就学児で最も多いのが声かけ事案で16件、中学生はつきまとい事案で8件、高校生はつきまとい事案で9件という状況です。令和7年度は、小学生・未就学児で最も多いのが声かけ事案で27件、中学生も声かけ事案で5件、高校生はつきまとい事案で8件という状況です。

次に、板橋区内の時間別前兆事案認知状況です。令和6年度は東京都内と同様15時から17時台で前兆事案の発生が多く、中でも16時台、声かけ事案が最も多いです。

令和7年度では、14時、16時、17時に前兆事案の発生が多く、最も多い値を示したのは前年と同様の16時台でした。

続いて板橋区の学職・時間別の前兆事案の認知割合です。令和6年度は小学生・未就学児、高校生は16時台で前兆事案の発生が最も多く、中学生は17時台で最も高く、近接した時間で多く発生しています。

令和7年度については、小学生・未就学時が14時台、中学生・高校生は16時台が最も多いです。

ここまでの話をまとめますと、凶悪犯・粗暴犯等における被害の認知件数で最も多かったのが13歳から19歳の中高生の少年で、前兆事案の被害認知件数が最も多かったのは小学生・未就学児という結果となりました。

また、前兆事案の発生した時間帯については、学校終わりや帰宅途中と推測される14時から17時台が最も多いです。

あくまでこれらの数値は警察庁及び警視庁が認知し、発出している統計割合であるため、実際の数値と齟齬がある可能性もありますが、今後の議題の参考にしていただければ幸いです。以上で終了いたします。ご清聴いただきありがとうございました。

#### ▽会長（板橋区長）

次に子どもの夕焼けチャイムの認識、家庭での活用状況について、区立小学校PTA連合会の大塚委員からお話をいただきたいと思います。

#### ▽大塚委員（区立小学校PTA連合会会長）

現在の家庭の状況を肌感で説明させていただきます。

現在の夕焼けチャイムについて協議がなされた約20年前から比較すると、専業主婦世帯というものが板橋区では2割程度になっております。それに伴い、板橋区ではあいキッズの拡充をしてくださっていて、子どもの居場所や見守りをしてくれています。主に夕焼けチャイムと合わせた時間で終了し、帰ってくる子が多いです。それ以降も保護者の就労状況によって午後7時頃まで預かっている子どもたちもいます。

また、あいキッズが終わった後にまだ帰宅してない保護者の方も多いです。その場合は、塾だとか、その他習い事を組み合わせて、子どもを一人にしないようにしている家庭が多くなっているように感じます。家に一人であるよりは誰かほかの人と一緒に、と考える人が多いです。

それ以外にも生活の部分だけではなく、インターネットやSNSといった見えないところで関わり合ったりだとか、トラブルに巻き込まれたりだとか、夏場はすごく気温が高く実際外で遊ぶことは少なくなったりだとか、色々な環境の変化があると思います。

なので、今回は子どもを取り巻く環境を広いところで捉えていただいて、安心して過ごせるように検討していただければと思います。

## ▽会長（板橋区長）

最後に、こども基本法の施行を受けた区の取り組みにつきまして、子ども政策課吉田課長からお話をいただきます。お願いいたします。

## ▽吉田幹事（子ども政策課長）

改めまして、子ども政策課長の吉田と申します。どうぞよろしくお願いいたします。少しお時間をいただきまして、こども基本法の施行を受けました区の取り組みについてご紹介させていただきます。資料4をご用意いただき、口頭で補足説明いたします。

こども基本法は令和5年4月に施行されました。比較的最近の話です。ちなみに、「こども」が平仮名表記でありますのは、「こども」の定義を「心身の発達過程にあるこども」としていることによるものと考えられます。18歳とか20歳とか、年齢によって必要な支援がとぎれないようにという趣旨と理解しています。

さて、こども基本法が施行されたころの背景ですが、少子化への危機感があり、国は2030年までがラストチャンスであるという表現を繰り返し用いています。国、都道府県、それから区市町村が一丸となって「こども施策」に取り組まなければならないということがあります。

こども基本法では、「こども施策」に取り組むにあたりまして、6つの基本理念を掲げています。一つ目は、こどもの基本的な人権が守られて差別されないこと。二つ目は、教育を受けられるということ。三つ目は、発達の程度によって自分に直接関係すること意見を言える、社会の様々な活動に参加できること。四つ目は、意見が尊重されて、こどもの今とこれからにとって最もよいことが優先して考えられるということ。五つ目は、家庭を基本としながらも、サポートが十分に行われて、家庭で育つことが難しいこどもも、家庭と同様の環境が確保されること。最後に六つ目は、家庭や子育てに夢を持ち、喜びを感じられる社会を作ること。

そもそも、こども基本法第一条、最初の条文では、「日本国憲法及び児童の権利に関する条約に則り」と始まります。この「児童の権利に関する条約」は1989年に国連において全会一致で採択されたものであり、日本はその翌年、1990年に署名して、批准したのは1994年です。それから30年近く経って、ようやく「こども基本法」に6つの基本理念が定まったわけです。

この条約では、児童の権利として4つ定められています。「命を守られて成長できること」「子どもの最善の利益」「子どもの意見の尊重（意見を表明し、参加できること）」「差別の禁止」以上の4つです。これらに基づいて、6つの基本理念がつくられています。

板橋区では先月、「いたばし子ども・若者・子育て応援プラン」を策定いたしました。いわゆる子どもに関する基本計画であります。この計画策定にあたりまして、子ども・子育て支援のニーズ調査に始まりまして、文化芸術やヤングケアラーに関することなども直接、子どもたちにアンケートを実施しました。

さらに、アンケート調査を補完するため、一般公募で「いたばし子どもワークショップ」を施行し、令和7年度から本格実施しています。資料4がその概要です。資料は第1

回のものですが、第3回まで実施して延べ50名弱の子どもたちが参加してくれました。第1回に参加して楽しかった子どもが、第3回まですべて参加した例もあります。資料の一番下に、「なぜ子どもの意見を聞くの」かを記載し、もう一度、子どもたちに振り返ってほしいと思っています。今回は、職員がまずテーマに沿ってプレゼンし、それを受けて、子どもたちがグループをつくって意見を交換し、提案を発表してもらいました。

こうした取組は始まったばかりですけれども、このワークショップに限らず、子どもたちの声を聞く機会には、様々な方法があると思います。この協議会でも、夕焼けチャイムについて検討するにあたり、ぜひ、子どもの意見を聞く機会の確保、それから可能な限りの反映に努めていただければと思いますので、皆様どうぞよろしくお願いいたします。

#### ▽会長（板橋区長）

ただいま各関係の皆様から、放課後の子どもたちを取り巻く現状についての説明がございました。これらを踏まえた上で、この会の審議テーマや検討方針についてご意見をご皆様から賜りたいと思います。議事(3)意見交換となりますが、いかがでしょうか。皆様どうぞ忌憚のないご意見をいただきたいと思います。

#### ▽島村委員（板橋区民生・児童委員協議会代表）

私は民生・児童委員の中の、主任児童委員として11年活動させていただいています。先ほど「こども」という言葉がなぜひらがなで標記されているかについて、心身の発達過程であるため、ひらがなを使用するとのご説明をいただきました。年齢は区切らず「こども」と考えるとのことでしたが、実は主任児童に活動をしている中で、こども基本法と現実がすごく格差があるというか、本当にそれでいいんですか？っていうようなことが、現実的に起きています。本当に板橋区の中で子どもたちはのびのびとおおらかに育つのかっていうところが、すごく心配な部分です。今回夕焼けチャイムをテーマとしていますが、この夕焼けチャイムは男女平等、ワークライフバランスが叫ばれていた時代に始まったものですので、あいキッズがない時代でした。現在板橋にはあいキッズという、子どもたちが安心して放課後いられる場所があり、とてもありがたい現状です。ぜひ板橋で小さいお子さんだけではなく、検討していただければ大変ありがたいなと思っております。話が広がってしまって申し訳ありません。

#### ▽事務局（地域教育力推進課長）

先ほどの吉田幹事の話に関係してお話しいただいたのかなと思います。夕焼けチャイムに関連してお話させていただきますと、まさに島村委員もおっしゃっていただいたようなお話が関係してくるのかなと思っております。

これまでの夕焼けチャイムは、先ほど警察の方からお話がありましたような小・中学生が犯罪に巻き込まれるリスクの軽減や帰宅意識の醸成が目的であり、家庭教育あるいは学校教育といったところを主眼に置いたものかと思っております。帰宅時間の促しというと



ころが、ナレーションの中からも読み取れている部分がありまして、そういったところが主眼におかれてきたのかなと考えております。我々が今回ご提案させていただいた検討方針の中で、MIRAI SCHOOL いたばし、あるいは教育大綱の中にも記載がありますが、学校教育・家庭教育含めて地域全体として、子どもの範囲を限定せず地域社会の中の学び、安心安全の意識をみんなで高めていこうということを夕焼けチャイムの検討の中で考えていければと考えております。

#### ▽大塚委員（区立小学校PTA連合会会長）

この協議会のお話をいただいた時に、PTAの役員や、小P連の役員などに、軽くお話を聞いてみました。皆さん口を揃えて言っていたのは、10月だと明るい時間の16時半に帰ってくる。約束は守ってほしいので、帰ってきなさいとは言いますけれども、実際大人も子どももまだ明るいと思っています。6時間目まで授業をすると帰宅は16時ぐらいになるんですけれども、その明るい時間で30分しか遊べなくてかわいそうだなっていう話がありました。ただその30分も遊びに行くんですけどね。

私の住んでいるところからは練馬区・豊島区・板橋区の夕焼けチャイムが聞こえるんですけれども、豊島区は何年か前まで「子どもたちは急いでお家に帰りましょう」ではなくて、「皆さん子どもが帰る時間なので見守ってください」といったアナウンスがついていました。現在はアナウンスがなくなり、ただのチャイムだけになったようですけれども。それに変わった経緯だとかも、調べてみたいなと思いました。

#### ▽事務局（地域教育力推進課長）

確かに、板橋区では「おうちへ帰りましょう」というナレーションになっておりますので、そういった活用がされているのかなと思います。実際に10月1日から10月の中旬ぐらいまでは16時半というのが少し早く感じる期間になっているのは、我々としても実感として持っているところでございます。

もともと「おうちへ帰りましょう」というナレーションはついておるんですけれども、夕焼けチャイムの趣旨としては、やはり帰宅時間の意識づけと言いますか、家庭の中のお話合いの中で、指針としていただくものでございます。帰る時間について残念だなと感じる子どもたちも、実際に多い可能性もあると思っております。そういった子どもたちの声を実際に聞きながら、ナレーションであるとか、あるいは時間について、今後議論していければいいんじゃないかなと考えております。

また、豊島区のナレーションのお話をいただきましたが、板橋区のような「おうちへ帰りましょう」というナレーションではなく、地域の方に子どもたちが見守りを願うようなナレーションがされている自治体も多々あると聞いております。そういった他自治体の例も参考にしながら、どういったナレーションだとか、運用方法が、地域社会全体として、子どもたちの安心安全意識の向上につながるか、というところを議論していければいいんじゃないかなと考えております。

#### ▽渡邊委員（板橋区保護司会代表）

はじめて参加させていただきますが、今回は保護司会の立場として参加しておりますけれども、私もいろいろ町会の副会長ですとか、主任児童委員ですとか、寺子屋ですとか関わらせていただいております。

今回のお話をいただいた時、たまたま子どもたちが参加するCS（コミュニティ・スクール）委員会があり、代表委員の子たちにちらっと聞いてみました。夕焼けチャイムってどう？みんなどう思ってる？と。そうしますと「これが鳴ったら帰るんだ、守るんだ」と。子どもたちは代表委員で来ている子たちですので、特にしっかりしている子だと思うんですけども。その後、CS委員に聞いた時に、働いている人間としては、「この時間になったからそろそろ帰る」とか、そういった目安になっているという意見もありました。

他に、保育園の園長先生がいまして、未就学児のお母さんたちが子どもを公園で遊ばせている時に、「ほら鳴ったから帰るよ」と区切る時間帯の認識があると聞きまして、確かにそういう考え方もあるのかなと思いました。子どもたちのためにということで、「こども」が先ほどのひらがな表記で年齢関係なくというお話とともに、未就学児のお母さん・お父さん方の目安にもなっているんだというのは事前での気づきでした。

また、先ほどお話があったように時間帯は少し考えた方がいいかなという意見は出ました。「10月から4時半なの？」っていう件もありましたし、またこれから検討していけばいいなと考えています。

#### ▽事務局（地域教育力推進課長）

現在の夕焼けチャイムのナレーションは、子どもたちの帰宅の促しみたいなのところがあるんですけども、実際には本当に色々な使われ方をしているのかなと思います。大人の方が働いている中で、時間を目安として感じるであるとか、未就学児の保護者が時間を子どもたちに促すために使っていく。本当に色々な使われ方をしているというところは、我々も認識しているところです。

そういう点で夕焼けチャイムの検討というのは、慎重な議論が必要になりまして、1年2年もかけて議論するようなことかと思われる方もいらっしゃるかもしれませんが、もちろん防災無線の試験放送という本当に重要な役割もありますし、様々な観点からの検討が必要になってくると考えております。作業部会も少し人数を厚くさせていただいて、いろんな方の専門的な知見を活かしながら、様々な面から一定の時間をかけて、検討していく必要があるのかなと考えております。

#### ▽堂本委員（区立中学校PTA連合会会長）

夕焼けチャイムなんですけども、うちも高校生・中学生・小学生の子どもがいて、子どもからよく夕焼けチャイムってこれなんなのっていうことを聞かれたことがあって、夕焼けっていう名前のとおり、しばらく時間が経つと暗くなっていくということで、先ほど警察の方から声かけ事案などが、15時～17時ぐらいがピークだというのは、明るくても多く発生してしまうということで、これから暗くなったらもっと増えるんじゃないかという

意味で、安全を考えると暗くなる前に帰ってほしいという思いがあって、早めにチャイムが鳴っているんだと説明したことがあります。

これがすごく大きいとっていて、恐らくチャイムがなかったり、そういう意識づけがなかったりしたら、どうしても子どもたちは熱中してしまうから、帰る時間が遅くなって、暗くなってくるとあっという間ですよ、っていうことがあるので、やはり夕焼けチャイムが鳴って子どもたちが気づくっていうのは、すごく有効だなと思っています。

今回検討するときにぜひ考えていただきたいのは、安全という点で、猶予といいますか、チャイムが鳴って、あと 30 分ぐらいしたら真っ暗になっちゃうから帰ろうね、という運用になっていくと、子どもたちにとっても気づきやすいし、意味がある。なぜこのチャイムが鳴ったら帰った方がいいのかっていうところが見えてきて良いかなと思います。

鳴らす意味とか、明るさの意味とかも含めてご討議いただけると幸いです。

#### ▽事務局（地域教育力推進課長）

堂本委員がおっしゃったとおり、夕焼けチャイムの時間が日の入りの時間とぴったりになってしまうと、帰る時にはもう真っ暗になっているというところがあると思うんですね。実際に今の運用も、日の入りの時間から一定の時間の余裕を持って、時間を設定しているというところがあると考えております。おそらく、子どもたちから意見を聴取すると、日の入りの時間とぴったりの時間っていうのが一定出てくる可能性もゼロではないかなと思っていますんですけど、大人の視点と言ったらいいんでしょうか、地域の子どもへの大人の見守りとか、あるいは保護者たち、というところも加味していかなきゃいけない部分もあるのかなと考えますけど、一定時間に余裕を持った検討というところも、やはり必要になってくるだろうと思います。

#### ▽大塚委員（区立小学校PTA連合会会長）

今の余裕を持つという話で思い出したんですけども、新学期になると学校から配られる小学校生活説明みたいなものがあるって、勉強の進め方とか規則を守りなさいみたいなプリントが1枚配られるんですけども、その放課後の過ごし方のところで、「夕焼けチャイムは家に帰って聞きましょう」というのがあって。うちの学校だけかもしれないですけど、ちょっとそこは現実的ではないような気がするんで、そういうところもしよければ見直しが必要だなと思いました。

#### ▽事務局（地域教育力推進課長）

実際に平成 19 年の時に小学校PTA連合会からご要望いただいた時に、夕焼けチャイムは家庭で聞きましょうという指導をしていますっていう話があってですね。もともとそういう指導というか、家庭教育をしていた部分もあるのかなと思います。

ただ、学校の時程が変わってきたり、いろんな子どもたちの放課後の過ごし方っていうのが変わってきている現状っていうのはあるかなと思いますので、そういった観点を踏まえて、子どもたちの意見も聞きながら、実情に合わせた形で夕焼けチャイムを検討していければ良

いのかなと考えております。

#### ▽三枝委員（板橋区青少年健全育成地区委員会連合会代表）

私は先ほどあったことも基本法の施行を受けた区の取り組みについてのところで、令和7年度はワークショップを3回行ったということなんですけれども、今後どういう形で広げていくのか、今年度は区役所で行われたようなんですけれども、例えばもう少し違う場所でも開催されるのか、子どもが主体的にいろいろな意見を出してくれるというのは、非常にいい取り組みだなと思うので、今後どんな形で広げていくのかをお話しいただければと思います。

#### ▽吉田幹事（子ども政策課長）

子どもワークショップは今年度本格実施を始めたばかりでございまして、しばらくは現状の形で続けたいと思っておりますが、手上げ方式で参加するやり方も良いですけれど、今おっしゃられたように、いろんな形があってもいいのかなと。いわゆる出張型があってもいいと思います。これから我々も試行錯誤して、このワークショップが、ワークショップに限らずですが、いろんなやり方で子どもの意見を聞くということが区政を進めていくうえで当たり前になっていくといいなと。今回この協議会で子どもの声を聞くということで進めていただいているということなので、そういう風に浸透させていきたいと思っております。

#### ▽間中委員（板橋区議会文教児童委員会委員長）

文教児童委員会の委員長という立場で、出席をさせてもらっているんですけども、子どもアドボケイトというものをちょっと広げてきた立場でもありますので、その視点も踏まえてですが、資料2の一番下を書いてある検討方針ですね。子どもの意見を幅広く聴取し、可能な限り反映させるというこの方針について、ちょっと気をつけてほしいなと思うのは、失敗している自治体のように子どもの意見の収集で終わらないでほしいなと。子どもが社会の一員だということをきちんと意識できるような進め方をしてほしい。

これは文教児童委員会の中でも言ったことあるんですけど、子どもの意見を聞くということについて、子どもの権利条約12条に書かれているんですけど、その意見っていうのは、オピニオンじゃないんですね。英文でちゃんと書かれているんですけど、ビューなんですよ。意見じゃなくて視点なんですよ。それを意識してちゃんと進めないと、子どもの意見を収集して、そのいくつかを反映しただけで終わっちゃうのかと。

子どもまんなかの夕焼けチャイムのあり方なので、次回以降からの部会には議長と僕は参加にはなってないんですが、子どもがいても本当にいいなと思っています。この部会自体が子ども基本法を元に進められるのであれば、小中学校の学級委員長だったりとか、生徒会長だったりとか、そういう子たちが参加をして、議論をするような場にすること、僕としてはしてほしいなと思っています。子どもの意見を聞いて良かったなと思えるような大人の成功体験を積み重ねるという2年間にしていけたらいいなと思っています。

す。

#### ▽事務局（地域教育力推進課長）

検討方針の中にあります「子どもの意見を幅広く聴取し、可能な限り反映する」というところの趣旨を本当にご理解していただけていると思います。聞くだけではなくて、しっかりと視点とか観点ですね。子どもの観点というところを非常に重要に考えながら、まさに意見として聞くだけというのではなくて、しっかり考え方自体を受け止めるというようなことが重要なのかなと、改めて感じたところでございます。部会の委員の中には確かに子どもの委員は含まれておりませんが、意見の聞き方として、いろんな考え方があるかなと考えておりますので、今いただいたご意見を踏まえまして、今後検討していければなと考えております。

#### ▽島村委員（板橋区民生・児童委員協議会代表）

今、間中委員に言っていたお話、とてもその通りだなと思います。子どもまんなかの夕焼けチャイムの進め方として、子ども自身に自分たちがこれを守るべきルールなんだったことを理解してもらいたいんですよね。

子どもは地域で安心安全に守りましょう。でも、子ども自身に自分たちがどうやって安全に生きていくのかという、その部分が抜けてしまうと、このせっかくの夕焼けチャイムの意図が薄れてしまうのかなと。また子どもにも、チャイムが子どもだけのためにあるんじゃないと、地域で生活している人たちが「あ、この時間になったんだ、そしたらこうしよう」って、それぞれ夕焼けチャイムを利用しているんだと、そういった中での夕焼けチャイムっていうことを子どもたちにもすごく理解してほしいなと。そして自分たちで決めたことは、自分たちで守るという意識づけをしっかりとってもらいたいなと願っています。

この夕焼けチャイムを変更するにあたり、ちょっとした工夫を入れる、「家に帰りましょう」だけではなく、「皆さん今日は一日元気に過ごせましたか」みたいな子どもたちがどんなふうに夕焼けチャイムに発信するかっていうことまで、話し合いの中に子どもの声を入れられたら嬉しいなと思っています。

#### ▽事務局（地域教育力推進課長）

子どもたちの意見というか、考えをどのように反映させていくかというところになっていくのかなと思っています。子どもたちが夕焼けチャイムに関して主体的な関わり方をしていけるような調査を進めていけたらと考えているところでございます。

#### ▽田中委員（板橋区議会議長）

本日の会議に参加をさせていただいてありがとうございます。第30期は、すごく大切な議論をこれから深めていただくのかなと感じております。

この全体スケジュールを見させていただいて、今日が意見交換会でキックオフというところになっていくと思うんですけども、これから作業部会でいろいろとご議論いただくことになっていきますが、部会員ということで、8名のお名前を記していただいているんですけど

も、吉田課長（子ども政策課）が入っていて、教育委員会の関係の方はもう入らないというのがわからないところがありまして。

今後議論を進めていくときに、今、様々な委員の皆さんからご意見がありましたとおり、必要な担当課長さん、子育て、それから福祉の分野、町会、青少年健全育成、そして板橋警察の方に前兆事案のご説明をいただきまして、かなり多方面で議論しなければいけなくて、2年かけてしっかりと提案をしていただくというところになっていくと、非常に作業部会がご議論いただくウェートが深い部分になっていくのかなと思います。

議会としてはですね、私たちは次が令和9年3月に第二回全体会で報告を受けるというところまで議論には参加できないということなので、ぜひ、作業部会の皆さんには議論をしていただいて、議論についての報告は都度、議会にも入れていただきたいなと思っております。

#### ▽事務局（地域教育力推進課長）

まさにおっしゃっていただいたとおり、作業部会の方で議論が必要なのかなと思います。我々地域教育力推進課も、青少年問題協議会そのものの事務局になりますので、こちらの作業部会には必ず関与をさせていただく予定でございますので、そのご心配については大丈夫かなと思っております。

また、作業部会の委員に関しましては、様々な方に協力いただき、様々な観点での議論をいただきたいなと思うんですけども、また議論の中で、どうしてもやはりこの方を作業部会の委員としてお迎えした方がいいんじゃないかというようなお話があった場合は、部会の委員の変更に関して可能性があるところではございます。

また、幹事も、もし必要があれば、情報提供であるとか、オブザーバー的な形で参加するということは考えられるところでございます。また作業部会で議論していく中で、必要な情報や資料に関しましては、今回の委員の皆様、その都度ご協力をお願いするような場面もあるかと思っております。その際はご協力をお願いできたらと考えておるところでございます。

また、作業部会の議論につきましては、適宜、必要に応じて共有させていただくことも検討していきたいと思っております。

#### ▽会長（板橋区長）

まだまだ意見が尽きないことと存じますけれども、時間に限りがございますので、ここで一度区切りとさせていただきたいと思っております。最後に副会長の武田委員にご意見・ご感想を伺いたいと思っております。

#### ▽副会長（東京家政大学児童学部教授）

大学生何人かに夕焼けチャイムのことを聞いてみました。もちろん板橋区在住の学生だけではないですけども、各々がそれぞれのチャイムを歌い出したんですね。アナウンスも「なんかかんとか〜」っていうのを繰り返して、日々聞いているものって子どもの中

に入っているんだなということを改めて思った次第です。

今日皆様のご意見を伺っておりまして、夕焼けチャイムをこれから考えていくにあたって、三点考えていかなきゃいけないなと思いました。

一点目は社会状況の変化です。母親が働く世帯が非常に増えている。子どももスマホを持っている小学生も増えてきたり、放課後も習い事だ塾だと忙しい、親子とも忙しいという社会状況になっているというその変化。

二点目は、再三今日お話がありましたように、子どもの権利を守るという観点ですね。児童の権利に関する条約とか、こども基本法のお話でしたが子ども、子どもの権利というのは、二種類ございまして、一つは能動的権利で、「子どもがこう思っていると主張する、それを聞く」という権利ですけれども、子どもからすると、「言っている」という権利ですけれども、これを大切にすることということで、今回子どもの意見をしっかりと、意見ではなくビューだということでしたけれども、子どもの声を聞いていくということが大事。

けれども、子どもってというのは、受動的権利っていうのを持っていて、安心して守ってもらえるという権利もあるので、犯罪のお話もありましたけれども、そうした観点も考えていかなきゃいけない。子どもの二つの権利ということをしっかり考えていかないといけないと思いました。三つ目は、板橋区の教育ビジョン 2035 にありましたけれども、いたばし全体を学びのキャンパスであると、子どもも大人も一緒に過ごすキャンパスであると。人と繋がりを感じられる喜びを感じられる街づくりの実現ということがお話の中であったと思うんですけど、夕焼けチャイムを考えていくに当たっては、この視点はやはり大変重要な視点だと思いました。

今申し上げた社会状況の変化、子どもの二つの権利を守るという観点。そして板橋区の教育ビジョン 2035 をしっかりと盛り込んで、作業部会の方で具体化していくということなのかなというふうに考えました。

#### ▽会長（板橋区長）

武田委員、また様々なご意見をいただきました委員の皆様、貴重なご意見、大変ありがとうございました。また後ほどお気づきの点等ございましたら、後日でも結構ですので、事務局の方にご伝達をお願いしたいと思います。

さて、事務局の方から審議テーマと検討方針に関して説明がありまして、様々な分野でご活躍をされている委員の皆さま方からご意見をいただきました。これらを踏まえて、第 30 期の板橋区青少年問題協議会の審議テーマを「子どもまんなか」の夕焼けチャイムのあり方」に決定したいと思いますけれども、皆様いかがでしょうか。

（異議なし）

ご異議がないようでございますので、今期の青少年問題協議会は、「子どもまんなか」の夕焼けチャイムのあり方」を審議テーマとして、作業部会を設置した上で、子どもの目線からの夕焼けチャイムの検証・検討をご協議いただくこととさせていただきたいと思います。

子どもたちを取り巻く社会は、今後も激しく変化していくことが見込まれております。その中で子どもの安心・安全はもちろんのこと、子どもを主体とした事業展開を区としても、積極的に動いていく所存でございます。「夕焼けチャイム」という日々の生活に当たり前のように溶け込んでいる分野ではございますけれども、今一度そのあり方について、ご議論を頂戴し、子どもたちにとってより身近となるよう最善の施策を生み出していただければと考えております。本協議会の委員の皆さんには、より具体的かつ実効性のある施策の推進に向けまして、それぞれのお立場から今後も変わらぬお力添えを賜りますようお願い申し上げます。本日の議事を終了とさせていただきたいと思っております。

その他事務局から連絡事項がございましたらお願いいたします。

#### ▽事務局（地域教育力推進課長）

（事務連絡）

#### ▽会長（板橋区長）

それでは以上を持ちまして、板橋区青少年問題協議会第一回全体会を閉会とさせていただきます。皆様お忙しい中ご出席いただきまして、誠にありがとうございました。